



No. 60 2006. 1.

イチゴに潜む炭疽病の簡単な調査法

炭疽病は、イチゴの最重要病害の一つです。主要栽培品種は本病に罹病性であり、発生すると大きな被害を受けます。葉や葉柄の病斑、株の萎凋(いちょう)・枯死等の症状が見られなくても、病原菌が潜んでいる場合があります。症状の出していない親株や苗を使っているのに、曇雨天が続くと突然炭そ病が発生することがあります。

この調査法では、イチゴに潜んでいる炭疽病を調べることができます。生産現場でも簡単に行えますので、ぜひ試してみてください。

用意するもの

ビニール袋 輪ゴム ティッシュ(または新聞紙)

調査方法

イチゴの葉を一つの株の外側から3枚以上とる

水道水でゴミ等を洗い流す

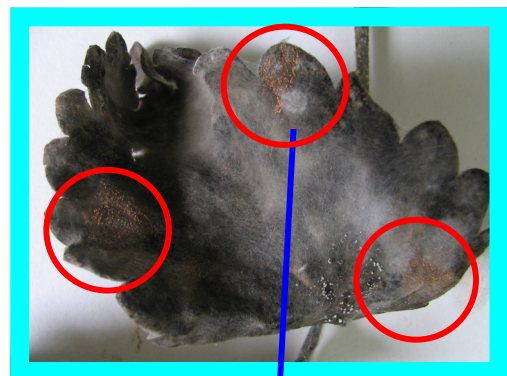
〔水道水に含まれる塩素で葉表面の殺菌もできます〕

水を十分含ませたティッシュ(または新聞紙)を入れたビニール袋にイチゴの葉を入れ輪ゴムで口を結ぶ

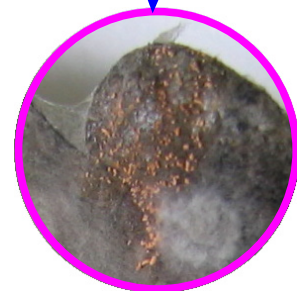
気温が28~32になる室内に12~16日間放置

〔直射日光は避ける、28に設定できる〕
〔恒温器があればより良い〕

鮭肉色(サーモンピンク)の孢子塊の有無を肉眼で確認する



拡大



この調査が最も有効な場面

親株として使う株を調査することで、育苗床に炭疽病を持ち込む可能性を低くすることができます。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

TEL (0883) 24-2217

農業研究所

FAX (0883) 24-2305

病害虫 担当

<http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo>